ハガキ運動

堺利彦

青空文庫

A　大隈侯が前の正月に受取つた年始の葉書は無慮十八萬五千九十九枚で、毎日々々郵便局から大八車で運びこんだと云ふが、隨分君エライもんぢやないか。

B　大隈侯のエライのに異存はないが、郵便局から大八車は少しをかしいなア。

A　ナニそんな事はどうでもいゝ。計數の正確な所が俺の話の特色だ。

B　成程、君は子供の時から數學ではいつも滿點を取つたと云ふのだね。

A　さうさ。俺が先達て先祖の計算をして、四十代前の俺の先祖の數が、一萬九百九十五億二千一百六十二萬五千七百七十六人だといふ莫大な數字を發表した時には、三十三萬三千三百三十三人の『中外』の讀者が一齊に僕の頭腦の明晰を感嘆したんだからね。

B　『中外』の讀者はそんなにあるのかい。

A　ウン。ざつと三十三間堂の佛の數の十倍と見積つたんさ。

B　ぢや大隈侯の葉書の數も何かからの見積りだらう。

A　イヤ、あれは本統だよ君。ちやんと新聞に書いてあつた。それを精密に記憶してるのが即ち俺の頭腦の明晰なる所以さ。

B　さうかい。大隈侯ひとりの分が十八萬幾らあるとすれば、……。

A　オイ君。そんな不正確な話はよしたまへ。十八萬五千七百九十九枚だ。

B　さうか。よし〳〵。大隈侯ひとりの分がそれだけあるとすれば、日本全國で使はれる年始の葉書は大變な數だらうなア。

A　さうさ。非常なもんだよ。君は好い事を聞いてくれた。俺の頭腦の明晰を一層確實に證據だてる機會を與へてくれた事を君に感謝するね。待ちたまへ。大正七年の一月十五日までに全國の郵便局で取扱つた年賀葉書の總數は三千四百五十六萬七千八百九十九枚といふ統計が示されてる。

B　九十九枚とはさすがの君も少し窮したな。僕なら二千三百四十五萬六千七百八十九枚と算出するんだがなア。

A　馬鹿を云つちやいかん。統計は神聖だ。勝手に算出して堪るもんか。それよりか君、俺の今度の年賀狀の趣向を見せてやらう。

B　又俳句だらう。先年電車のストライキのあつた時、あれは何とか云つたつけな、妙な俳句の樣なものを書いてよこしたぢやないか。

A　ウン、あれは斯うさ。『君が代の電車も止まる今朝の春』さ。

B　もひとつ、何とかいふ首つりの名句があつたぢやないか。

A　ウン、あれは俺のぢやないけれど、斯ういふんだ。『君が代の社頭の松に首くくり』さ。

B　それで君の今度のは？

A　奇拔だよ。驚くな。口で云つたんぢや面白くないから書いて見せる。ソラ、これだ。

新玉の年立ちかへる旦かな　　隱居
目の玉のでんぐりがへる旦かな　　熊公
世界中ひつくりかへる旦かな　　澁六

B　何アんだ、隱居だの熊公だの澁六だのと。

A　馬鹿だなア、澁六とは俺の變名ぢやないか。『立派なユーモリスト』『日本一のユーモリスト』として俺の盛名を知らないとは、

親友甲斐のないにも程があるぢやないか。然しそれはマアいゝとして、『隠居』と『熊公』とが分らないとは、君の頭は隨分お粗末なブロツクだね。

B　ブロツク・ヘツドに分る様に説明したらいゝぢやないか。

A　いよ〳〵馬鹿だなア此奴は。凡そ、洒落、皮肉、諷刺の類を説明して何になる。刺身にワサビを附けて煮て食ふ様なもんぢやないか。

B　僕は折々刺身を煮て食ふよ。中々〳〵うまいものだ。

A　仕様がないなア。ぢや説明してやる。よく寄席で落語家がやるぢやないか。横丁の隠居が熊さん八さんに發句を教へる話だ。隠居が物識ぶつて『新玉の年立ちかへる旦かな』先づこんな風に云ふものだと作例を示す。すると熊さんが、『發句ツてそんなもんですかい、ぢや譯アねえ』と云ふので、『目の玉のでんぐりかへる旦かな』とやりだす。落語家の見識からすると、『新玉の』は本統の發句だが、『目の玉の』は無茶な句だとして、それで聽衆を笑はせようとするんだが、俺の見る所は之に異なりだ。即ち熊公の口から自然に迸しり出た『目の玉のでんぐりかへる』といふ大膽な用語が寧ろ奇抜でいゝね。そこで『立派なユーモリスト』なる澁六先生之に和して、『世界中のひつくりかへる旦かな』とやつたんだ。どうだ分つたか。

B　分つたには分つたが、君の其句の何處が面白い？

A　仕様がないなア。ロシアも引つくりかへつた。ドイツも引つくりかへつた。今に世界中が引つくりかへるんだよ。

B　それは分つてるが、あんまり面白い事でもあるまい。

A　面白いぢやないか。『世界改造』が講和會議のモツトーになつてる。ウヰルソン大統領は曩にドイツ國民に對して國家組織の改造を要求して、とう〳〵あの革命を勃發させた。日本は英佛米伊の四國と共に支那に勸告を發して、早く南北の爭ひを止めて『世界改造の偉業に參加せよ』とやつたね。支那はお蔭で南北合同の大共和國になるだらう。今に此の筆法を以て日本國内の政治を改造せよと迫るものがあつたら、君は一體どうする積りだね。

B　そんな事を僕が知るものか、僕は政治なんぞに關係した事がない。

A　だつて君も日本國民の一員ぢやないか。

B　日本國民たる者は誰でも政治に關與する筈のものかい。

A　當り前ぢやないか。

B　然し今日まで誰も僕に政治上の相談なんど持ちかけたものが無いのだもの。

A　フン、それは相談をしない方が悪いんだが、向ふで相談しなけりや此方から相談しかけたら可いぢやないか。

B　然し僕なんどが相談しかけたつて誰も相手になつて呉れないだらう。

A　それだからいけないよ、君は。何でも相手にさせるんだよ。相手にしなけりや承知しないと云ふんだよ。それが政治機關を改造する所以なんだらうぢやないか。

B　そんなに僕を叱つたつて仕様がない。

A　或程、君を叱つたつて仕様がない。今に俺は大いに外の奴等を叱つてやるんだから、今日はマア君と女の話でもしよう。其の方なら君の專門だから。

B　別に專門といふ譯でもないが、政治の話より女の話の方が面

白い。

A　Mさんの近況はどうだね。健康は大いに回復したかね。

B　あゝ、大きに此の頃はいゝさうだ。最近の報告に依れば、體量が十二貫三百五十匁になつたさうだ。

A　ヤア、君も女の事になると、大ぶん精密な數字を擧げてくるね。

B　だつて、さう書いてよこしたのだもの。あすのあさ來る葉書にはキツト又五匁ぐらゐふえてゐるだらう。

A　あすの朝、葉書が來ると極つてるかね。

B　うゝ極つてるよ。毎日、朝と晩と一枚づつ來る。僕も毎日、朝と晩と一枚づつ出してる。

A　おや〳〵、驚いたねえ。お睦まじいこツた。

B　だつて是非さうして呉れと云ふのだもの。

A　イヤ大きに結構。双方で一月九十錢づつの散財だ。精々葉書の贅澤をやりたまへ。

B　僕の友人には、旅行中、毎日必らず三度、留守番の細君に葉書を出す人があるよ。

A　おや〳〵。毎食後三十分を經て白湯にて用ゆかね。

B　全く。始終葉書を書く癖をつけると持藥の樣なものだよ。

A　持藥は好かつたね。何しろマアそれでヒステリー病だの恪氣病だのが直れば結構だ。年始状を無暗に澤山出したりするのに比べると、君等の蓋し葉書利用法の上乘なるものだね。

B　まだ斯ういふのがあるよ。矢張り僕の友人だが、國の母親がひとりで寂しがつてゐると云つて、毎日一枚づつ繪葉書を出してゐるが、モウそれを三四年間一日も缺かさずやつてるから感心だらう。

A　ラヴレターなら昔から、馬に積んだら七駄半なんて云ふ先例があるんだけれど、母親へ毎日缺かさずは全く感心だね。蓋し葉書利用法の最上乘なるものかね。

B　まだ斯ういふのがあるよ。矢張り僕の友人だが……

A　葉書に關する君の知識は非常に豐富だね。女の話ばかりが專門かと思つたら、葉書の話も專門だね。

B　僕は自分が隨分よく葉書を書くから、人が葉書を書くのにも注意してる。其女はね……

A　女かい、それは？

B　あゝ女だよ。

A　それが君の友人かい？

B　あゝ友人だよ。女の友人があつたつて何も不思議な事はあるまい。

A　イヤ、別に不思議とは云はない。それで？

B　それで其女はね。或時或男に結婚を申込んだ。

A　女がかい？

B　あゝ、女がだよ。女が結婚を申込んだつて何も不思議な事はあるまい。

A　イヤ、別に不思議とは云はない。それで？

B　それで其女はね。私の一身を捧げる人はあなたより外にはないとか何とか云つてね。是非この哀れなる悶えの子を救つて下さいとか何とか書いたものだ。

A　葉書にかい？

B　イヤ、それだけは封書だつた、さうだ。所が男の方では、まだ結婚なんどする積りがなかつたものだから、『そんな事を云つて

くれては困る。自分はまだ』何だとか斯だとか云つて曖昧な返事をした、さうだ。

A　をかしいぢやないか。其男と其女とは、それより以前どんな關係に在つたんかい。

B　うゝ、それはマア双方の間にキナ臭い匂ひぐらゐしてゐたのだらう。其中、女が國に歸つて、暫くしてから其の手紙をよこしたんだ、さうだ。

A　何だか少しをかしいね。然しマアいゝや。それから？

B　それから翌月の一日になると、『御返事を待つて居ります』と只それだけ綺麗な柔しい字で書いた女の葉書が來た。男は又好い加減な事を云つてやつておくと、又その翌月の一日に葉書が來た。矢張り『御返事を待つて居ります』と只それだけ書いてある。男は何とも云つてやり様がないので、其のまゝ打つちやらかしておくと、又その翌月の一日に葉書が來た。矢張り『御返事を待つて居ります』とある。男は困つて了つて、あんな葉書を度々よこしてはいけないと云つてやつたが、矢張り又その翌月の一日には『御返事を待つて居ります』の葉書が來た。其後、男から何と云つてやつても、女からは依然として毎月一日に『御返事を待つて居ります』の葉書が來た。とう〳〵それが一年間續いた。男もさすがに少し心を動かされたけれども、まだどうあつても結婚などの出來る様な身の上でないので、仕様がないから葉書を取りツぱなしで、打つちやらかしておいた。所が葉書は矢つぱり來る。そして依然として『御返事を待つて居ります』とある。男は少々氣味が惡くなつた。とう〳〵又葉書が十二枚たまつた。丸二年間、小言も云はず、怨みも云はず、只『御返事を待つて居ります』で責められたのだから堪らない。男はとう〳〵落城した。然し今更、何とか斯とか長文句の手紙も書けないものだから、『承諾、直ぐ來い』と書いた電報の様な葉書を出したんだ、さうだ。

A　其女が即ち現今房州に出養生の君の細君だね。

B　ハハア、まあそんな譯さ。

A　どうも永々と御馳走様。葉書で始まつた御縁だから毎日二枚づつの往復ぐらゐ當り前だね。然し何しろ葉書といふ奴は面白いものだね。くど〳〵と長たらしい事を書いた手紙よりか『御返事を待つて居ります』の葉書の方が、遙かに君の胸を衝ぐる力を持つてゐたんだね。

B　全くさうだよ。だから僕は大いにハガキ文學を唱道してるんだ。

A　ハガキ文學は好いね。ソラよく雜誌社などで原稿を集める一手段として、諸名士に往復葉書を出したりするぢやないか。

B　あゝ、あれは駄目だよ。葉書一枚ぐらゐの短文で、ちよつと氣の利いた面白い事を書き得る様な名士は幾らも居ないからな。

A　中には隨分長文の氣焰を吐いてよこしてる人もあるぢやないか。誰も讀みはしないだらうに。

B　全くだよ。あんな人に限つて有數の惡文家、乃至、駄文家だから堪らない。

A　待てよ。此の對話は『中外』に載せるんだから、そんな話は少し遠慮して置かうよ。それよりかモツト葉書に關する無邪氣な面白い話でもないかい。

B　あるよ。僕は一體、滅多に封書といふものを書かない。そんなに人の見て惡い様な事を書く場合はないからなア。それで僕は何

用でも大抵葉書で濟ますのだが、若し一枚で足りなければ二枚續きにする。二枚つゞきにしたつて封書と同じ事で三錢だ。たまに三枚續きにする事もあるが、狀袋に入れたり、切手を張つたりする面倒がないだけでも、一錢五厘の値打はあるからな。

A　成程、葉書の二枚續き三枚續きはチヨツト變つてる。さすが君は葉書の專門家だね。

B　僕は又折々葉書で友人と論戰する事がある。十枚づつも葉書を往復すると可なり面白い論戰が出來る。まじめな論戰をやる事もあれば、惡口の吐きあひや皮肉の言ひあひをする事もある。其間に顏を合せる事があつても、口では其事は何んにも云はない。そして内に歸つてから葉書を出す。チヨイト面白いものだよ。

A　成程、それも惡くないね。今度、君と俺とで一つやらうか。

B　やらう。是非やらう。葉書の返事なら僕はどんな忙がしい時でも直ぐ書く。オヽ、それからまだ斯ういふ面白い話があるよ。矢張り僕の友人だが、――今度は男だが――或奴から少し取るべき金があるのに、どうしてもよこさない。いろ〳〵掛合つて見たが埒があかない。忌々しくて仕樣がないけれど、まさかナグリに行く譯にもゆかない。そこで毎日々々催促の葉書を出した。十日も續けて催促したら何とか返事ぐらゐよこすだらうと思つたが、少しも手ごたへがない。いよ〳〵忌々しくて仕樣がないので、又十日ばかり續けた。矢張り何の手ごたへもない。もう斯うなつて來ると此方も意地だ。畜生、いつまでゝも止めるものかと根氣よく書きつゞけた。文句は色々に變へて、或は強く、或は弱く、或は罵り、或はふざけ、種々樣々の事を書いてやつた。中途で凹たれては全く敵に降伏する譯だから、例の持藥のつもりで毎日書いた。もう斯うなつて來ると、取るべき金を取らうと云ふ最初の考へもなくなるし、又それが爲めに葉書代を費すのは損だといふ樣な考へもなし、只だ是非とも仕なければならない日課として、毎日々々根氣よく書きつゞけた。たまには、こんな事をしてゐて結局馬鹿を見るのぢや堪らないと考へた事もあつたが、モウ二ヶ月あまり續けて見ると、今更やめる譯にはどうしても行かない。困つたものだとは思ひながらも、一つは習慣の惰力でとう〳〵五個月間やりつゞけた。さうすると、どうだらう。或日先方の奴が突然僕の内にやつて來て……

A　君の内にかい？

B　うゝ、實は矢張り僕のやつた事さ。

A　だらうともつた。君が細君から施された術を今度は敵に應用したんだね。

B　マアさう云つた樣な譯だらう。所で奴、突然僕の内にやつて來やがつて、『どうも五個月間の葉書攻には閉口しました。あなたの根氣には實際驚きました』なんて云やがつて、三十圓の金を置いて行つたが、僕了簡に嬉しかつたよ。あれで若しいつまでゞも放つて置かれた日にや、僕たる者、實に進退きはまる所だつたんだが。

A　さうさねえ。つまり根氣くらべだね。然し如何なる人物でも、毎日々々葉書で攻め立てられちや放つて置けないものと見えるなア。假りに俺が其の地位に立つたとして考へて見ても、事柄の如何に係はらず、毎日葉書で何のかのと云つて來られた日にや、實際やり切れまいと思ふよ。別に自分がそれについて弱味を持つて居ないにしてもさ、永い間には何だか斯う不安を感じて來さうな氣持がするね。

B　全く不安を感じるよ。薄氣味がわるくなるよ。

A　『御返事を待つて居ります』がよほどこたえたね。ハハヽヽ。

Ｂ　ウフヽヽヽ、それからまだ斯ういふ話があるよ。或學校で學生間に教頭排斥が起つて、既にストライキをやらうとしたのだが、ストライキでは犠牲を出す恐れがあると云ふので、ハガキ運動といふ事を誰かゞ思ひついて、有志の學生は毎日一枚づつ教頭に宛てゝ辭職勸告の葉書を出さうと云ふ事に申し合せた。サア其の翌日から教頭の宅に葉書が盛んに舞ひこむ。初は二十枚か三十枚だつたが、追々五十枚となり、百枚となり、二百枚となり、三百枚となつた。其の教頭は隨分頑固な男で、こんな不都合な示威運動には讓歩しては學校の威嚴が保たれないと云つて、葉書が何百枚來ようと見向きもしなかつたが、其の狀態が一月ばかりも續いて、葉書の數が五百枚に達した時、とう〳〵教頭の奥さんが泣きだして夫に辭職を勸めた。其時には頑固な教頭自身もモウ好い加減不安を感じてゐたのだから、お前までがソウ云ふならと云ふ樣な譯で、それをキツカケにして早速校長の手元に辭表を出した。それでも學生の中の何人かは矢張り筆跡が證據になつて退學處分を受けたんださうだが。

Ａ　フーン、そいつア面白い話だね。學生としては少し不穩な行動かも知れないが、多數の葉書を受取る人の心理を研究するには好い材料だね。君は實際、葉書研究の專門家だよ。先つきの貸金の催促といひ、『御返事を待つて居ります』と云ひ、皆な面白い話だね。

Ｂ　所が、此のごろチラと聞いた話だが、右のハガキ運動を選擧權擴張の要求に應用しかけてゐる者があるさうだ。

Ａ　ヘエ？　それはどういふんだね。

Ｂ　僕は政治上の事に趣味がないから委しい事は知らないが、何でも請願の代りに、多數の人民から衆議院議長に宛てゝ葉書を出さうと云ふのださうな。

Ａ　さうか。そいつは面白いねえ。『普通選擧を斷行せよ』『我に選擧權を與へよ』なんて云ふ葉書が毎日々々、何千枚も何萬枚も衆議院へ舞ひこんだら、議員も萬ざら知らん顏をしては居られまい。

Ｂ　何アに、あれらは無神經だから知らん顏をしてるよ。

Ａ　だつて君、若しか國民の多數が年始狀を出す樣な氣になつて見たまへ。俺の計算に依れば、少くとも三千四百五十六萬七千八百九十九枚の葉書が衆議院に舞ひこむ譯だ。若し君の計算に讓歩するとしても、二千三百四十五萬六千七百八十九枚が舞い込むんだ。

Ｂ　さうかなあ。議員なんて云ふ連中でも、それだけ舞ひこんだら矢張り多少の不安は感じるだらうかなア。

Ａ　それや君、少しは薄氣味わるくなるだらうぢやないか。只つた十八萬五千七百九十九枚の年始狀が大隈邸に運びこまれてさへ新聞種になるんだもの。三千四百五十六萬七千八百九十九枚、若しくは二千三百四十五萬六千七百八十九枚の選擧權要求書が、毎日々々大八車で衆議院に運びこまれるとしたら、如何に無神經でも堪るまいぢやないか。彼等は謂ゆる『世界改造の偉業』に參加すべき責任を有しているんぢやないか。國内政治機關の改造を要求する人民の聲を無視する譯に行くまいぢやないか。どうだい君、君はサウ思はないんか。

Ｂ　僕か。僕は政治に關係がないのだから、そんな事はどうでもいゝ。然し事苟くも葉書に關する以上、其點で聊か僕の注意を引いてるのだがな。

Ａ　仕樣がないなア。イヤ、然し有りがたう。お蔭で色々面白い話を聞いた。俺は之からモ少し善くハガキ運動について考へて見なくちや。左樣なら。いづれ又。

（大正八年）

青空文庫情報

底本：「現代ユウモア全集　第二巻　堺利彦集」現代ユウモア全集刊行會
　　1928（昭和3）年10月20日発行
入力：Juki
校正：染川隆俊
2011年5月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ハガキ運動

堺利彦

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/